

H30年度 全国学力学習状況調査・佐賀県学習状況調査の分析結果と 今後の対応について

小城市立三日月小学校

4月に行われた全国学力学習状況調査（6年国語・算数・理科）、佐賀県学習状況調査（5年国語・算数）の本校全体の結果をまとめました。

また、生活習慣に関する意識調査について、数値が高かった項目と低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。

【全体の正答率について】

5年国語科：全体の正答率は	県の平均と	ほぼ同じです。
5年算数科：全体の正答率は	県の平均と	ほぼ同じです。
6年国語科：全体の正答率は	国・県の平均と	ほぼ同じです。
6年算数科：全体の正答率は	国・県の平均より	上回っています。
6年理科	：全体の正答率は	国・県の平均より 上回っています。

【経年比較について】

同一児童での経年比較（県正答率を基準にした時の本校の正答率）をしてみると、5年生の国語科の正答率はほぼ同じ、算数科の正答率はやや上がっています。6年生の国語科の正答率はやや上がり、算数科の正答率はほぼ同じ、理科は上がっています。このことから、全教科においては学力が身につけてきていると言えます、今後も子ども達にさらにしっかりと学力をつけていく対策をとっていきたいと思います。

結果の個人票は、1学期に配布をしました。本校では、夏期休業中に、職員研修を行って今回の結果を詳しく分析しました。その分析をもとに、2学期以降の授業の改善等に生かして、学力の向上をはかっていきます。

2学期当初に、家庭学習の具体的な取り組みについてまとめた「家庭学習リーフレット」を保護者の皆様に配布してお知らせします。学習に対する取り組み方や学習方法を工夫することによって、より学力の定着が図れます。保護者の皆様の本校の取り組みにご協力いただきますようお願いいたします。

～全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の分析結果と今後の対応について～

	分析結果 《◎よい ○ほぼ同じ ●課題点》	今後の対応
5 年 国 語	<p>○全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。</p> <p>◎「読むこと」は、県平均をやや上回っている。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「言語事項」は、県平均とほぼ同じである。</p> <p>●「書くこと」は 県平均をやや下回っている。</p> <p>◎自分の考えを明確にして話すこと。 ◎文章の内容を踏まえて、引用や要約をすること。</p> <p>●目的に応じて計画的に書くこと。 ●文脈に即した漢字を正しく書くこと。 ●間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする（推敲）こと。 ●理由を明確にして話す内容を構成すること。</p>	<p>①国語科や他教科の授業においても話し合い活動を取り入れる。相手の話を聞く際には、自分の考えと比較して聞く力を身につけさせる。</p> <p>②いくつかの条件に合わせて書く活動を取り入れる。その際、書く目的や意図（目的意識）を明らかにする。</p> <p>③文章全体の構成を考える活動を取り入れる。</p> <p>④ローマ字や慣用句、漢字については、家庭学習やすすくタイムなどでプリントに取り組みさせる。</p>
5 年 算 数	<p>○全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。</p> <p>○観点別では、「知識、理解」は県平均とほぼ同じである。</p> <p>●「技能」「考え方」はやや下回っている。</p> <p>○領域別では、「量と測定」は県平均とほぼ同じである。</p> <p>●「数と計算」は県平均より下回っている。</p> <p>●四則、小数のかけ算の小数点の付け方、分数引き算などの計算のきまり。 ●四捨五入、概数の理解。 ●展開図の組み立ての知識を使い、条件に合った答えを見つけること。 ●立体図形の面と辺の関係の理解。</p>	<p>①「すすくタイム」等に基本的な問題を反復練習させることで知識理解や技能の定着を図る。</p> <p>②問題文を読み取ったり、与えられた情報を整理したりするため、問題文を短く切って読み取らせたり、アンダーラインを引いたりさせる。</p> <p>③問題文を絵や図に表す活動や、図・式・言葉がつながる活動に意識して取り組む。</p> <p>④図形に分割線や補助線を書き込ませ、既知の図形に気づかせる。</p>

	分析結果 《◎よい ○ほぼ同じ ●課題点》	今後の対応
6 年 国 語	<p>◎全体の正答率は、AB 問題ともに国・県平均とほぼ同じである。</p> <p>◎観点別の正答率では、「読むこと」「言語事項」がやや上回っていた。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」はほぼ同じである。</p> <p>●特に「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く」ことに課題が見られた。</p> <p>●計画的に話し合うために、司会の役割についてとらえること。</p> <p>●条件付きの問題に慣れることも必要である。</p> <p>●記述式での解答する場合は、無答率が高くなる傾向がある。</p>	<p>①学習全般において（スピーチタイム、2人で学習、ディベートなど）筋道を立てたり、話し手の意図をとらえたりする活動を取り入れる。</p> <p>②条件付きの作文（字数制限、内容の即した文章で自分の意見をまとめる等の複数条件）の学習を取り入れる。</p> <p>③国語科や学級会などの話し合い活動を通して、司会者等の役割や意義を理解させる。</p> <p>④図書館の利用や本に親しむ機会を継続して取り組むことで、活字に対する興味関心を引き出す。</p>
6 年 算 数	<p>◎全体の正答率は、A 問題では国・県の平均を大きく上回っていて、B 問題では、同平均をやや上回っている。</p> <p>◎観点・観点別の正答率は、やや上回っているか大きく上回っている。</p> <p>◎角度の理解、空間の位置関係を正しく理解している。</p> <p>●整数の除法で、商、除数、余りの大きさの関係や、小数の除法の意味の理解。</p> <p>●データやグラフの読み取り。</p> <p>●示された情報を解釈し、それから判断した理由を書く設問では、無答率が高くなる傾向にある。</p>	<p>①筋道を立てて考える力をつけるために、問題文から分かることを書き込んだり、文意を絵や図で分かりやすく表現したりすることで、情報を分かりやすく整理する。</p> <p>②授業において、別の考え方を解釈する場面を意識して取り入れる。</p> <p>③授業の「つなげる」場面において、説明の仕方やモデルや算数用語を示すことで、自分の言葉で説明できるような活動を取り入れる。</p> <p>④「量と測定」では、生活と結びつけて理解することが大切であるため、体験的な活動を下学年から多く取り入れ、量感を育てるようにする。</p>

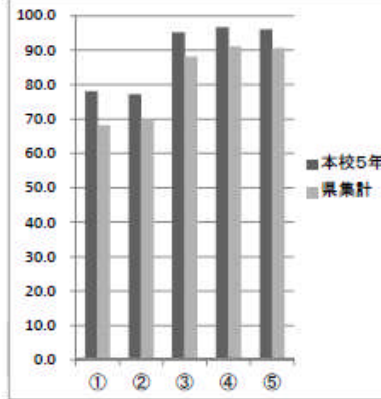
<p style="text-align: center;">6 年 理 科</p>	<p>◎全体の正答率は、国・県平均を上回っている。</p> <p>◎観点別では「技能」が非常に高く、これは、以前に理科専科が配置され、実験観察の環境整備や質の高い授業の成果だと考えられる。</p> <p>○「知識理解」の領域はほぼ県平均並みであった。</p>	<p>①学習した内容を日常生活と関連づけながら、考察する機会を増やしていきたい。</p> <p>②事象や目的に応じて実験器具などを正しく適切に操作できるような技能をしっかりと身につけさせる。</p> <p>③実験や観察をしたことをクラブや表に整理して、それを基に理科用語を使って考察したり概念をまとめたりする活動を多く取り入れていく。</p>
--	---	---

～生活習慣に関する意識調査について～

平成30年度 三日月小 生活習慣に関する意識調査 【5年】

【数値が特に高かった項目】

調査の項目	
①	31)算数の勉強は好きだ。
②	24)授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいると思う。
③	1)学校に行くのは楽しいと思う。
④	7)友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていると思う。
⑤	37)国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。



【分析と取組】

○算数が好きな児童は80%に達しているが、正答率は68%程度であり、これは県の正答率より5ポイント下がる。つまり、学習には楽しんで臨んでいるけれども、学習内容の理解は十分ではない傾向にある。

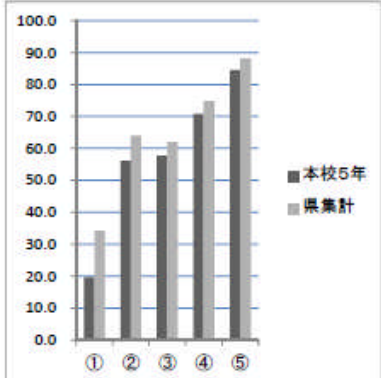
○全教科の正答率は67%程度であるが、グループ学習への取り組みには意欲的であり、話し合いや発表会などに楽しんで取り組んでいる。

○学校に行くのが楽しいと感じている児童は、正答率が70%に達しており、学習も楽しんで取り組み、理解を深めていると思われる。

○5年児童は、友達との関わりが学校生活上では大事な要素になっている。そこで、学習形態を少人数などの工夫をして、より理解度が上がるようにしたい。

【数値が特に低かった項目】

調査の項目	
①	66)昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。(週に1回以上)
②	30)社会の勉強は好きだ。
③	59)普段(月曜日から金曜日)、何時ごろに寝ますか。(午後10時前に寝ている)
④	47)社会の授業で、自分で調べて分かったことや考えたことをもとに話し合っている。
⑤	51)算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。



【分析と取組】

○読書は好きであるが、図書館に行く傾向が少ないので、個別に具体的な目標を持たせたり、より本に親しむように声をかけたりしていく必要がある。

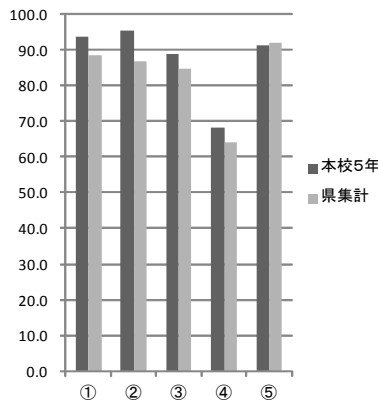
○社会科は、4年時よりも視点が広がり、日本や世界に目を向けていかなければならない。また、覚えなければならない用語、地名なども多く、教師主導の講義型暗記重視指導に陥りがちである。そこで、子ども達の興味関心を高めるため、1時間ごとの評価基準を明確に示したり、資料を使って調べ新聞に表したり、討論を取り入れたりするなど、授業の改善が必要である。

○寝る時間が遅い傾向にあるので、生活習慣調査などを行って睡眠時間への意識を高めるとともに、家庭にも協力を呼びかけていく必要がある。

平成30年度 三日月小 生活習慣に関する意識調査 【6年】

【数値が特に高かった項目】

調査の項目	
①	36)算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。
②	40)理科の授業の内容はよく分かる。
③	2)先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。
④	27)算数の勉強は好きだ。
⑤	28)算数の勉強は大切だ。

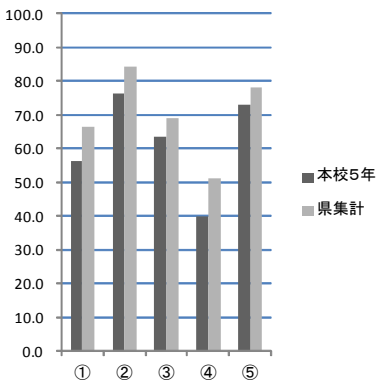


【分析と取組】

○「算数の勉強は大切だ」と回答している児童の正答率が高い。日常生活の中で活用できる場面を、子ども自身に見つけさせるような授業を仕組むことも手立ての一つになる。
 ○理科の内容理解について、ただの知識だけにならないように、観察や実験を通して事象と結びつけて考えさせていく。
 ○子どもの自己肯定感を高めることを意識して、声をかけたり、接したりしている。認められ感を土台にして、自信を持って学習に取り組むことができると言える。

【数値が特に低かった項目】

調査の項目	
①	23)地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。
②	3)将来の夢や目標を持っている。
③	10)自分で計画を立てて勉強をしている。
④	45)理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか。
⑤	34)算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。



【分析と取組】

○ボランティア活動への参加経験がある子どもほど得点率が高い。いろいろなことに関心が持てるように、低・中学年のころから意図的に体験的な活動を仕組んでいく。
 ○自分で計画を立てて勉強している子どもの割合が低い。家庭学習の手引きを配布するだけでなく、子どもと一緒に内容を見返すなど、活用を呼びかける。また、生活の中で学習する時間を位置づけたり、自分なりに工夫したりすることができるように、定期的な生活スケジュールを立てさせる経験も必要になってくる。
 ○理科の授業でも、分かったことや考えたことを説明する場を設ける。